

# すだちの新たな貯蔵技術の検討と晩生品種の導入支援

## ねらい

すだち生産者の高齢化による労働不足により、予措・袋詰め・入庫まで続く作業が長時間労働になっていることから、簡易な中期貯蔵を検討をします。また、長期貯蔵が品薄になる2～3月期の出荷に向けた晩生すだちの産地導入を支援します。

すだちの中期貯蔵は、スチロール容器を用いた貯蔵技術の検討を進め、貯蔵モデルの再構築を図り、農業者の所得向上を目指します。また、農産園芸研究課が開発した晩生すだち「勝浦1号」は、産地導入に向けて検討会を開催し、関係機関への周知を行います。

## 活動地域・対象

地域：徳島市、神山町、阿南市、勝浦町、佐那河内村

対象：すだち農家

## 普及活動の目標

貯蔵技術導入モデル農家 6戸

晩生すだち導入モデル農家 30戸

## 目標に向けた活動概要

### 1 硝酸カルシウム施用による貯蔵すだちの緑色維持

近年の集中豪雨の多発や窒素肥料の無機化により、流亡率が上昇して品質低下を招いていることから、夏肥の施用について見直しました。

- ・ 課題解決実証展示ほの設置
- ・ 実証ほの検討会の実施
- ・ パンフレットの作成・配布



展示ほ設置の検討会

### 2 すだちのスチロール容器を用いた貯蔵技術の検討

大袋ポリエチレン袋よりも簡易な中期貯蔵技術の開発を目指し、夏場に硝酸カルシウムを施用したすだち果実を無予措でスチロール容器に入れて貯蔵しました。

- ・ 通常の大袋貯蔵との比較
- ・ 硝酸カルシウムの施用時期、エチレン吸着剤（CSパック）の効果を追加
- ・ 実証ほの検討会の実施



貯蔵試験の果実調査

### 3 晩生すだち「勝浦1号」を産地導入支援

すだち「勝浦1号」が持つ晩生品種の特性を活かして、2～3月の出荷用品種として産地への導入を推進しました。

- ・ すだち「勝浦1号」産地導入推進方針の策定と周知

## 普及活動の成果

### 1 硝酸カルシウム施用による貯蔵すだちの緑色維持

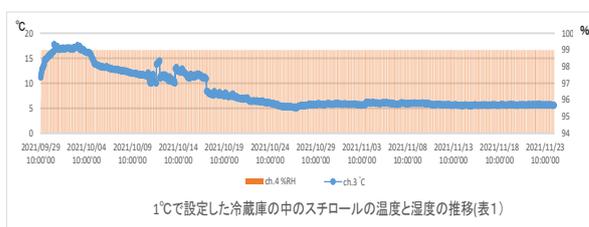
- 通常の施肥時期に加えて、7月下旬～8月上旬に硝酸カルシウムを散布した。
- 通常の施肥量に夏肥3kgを増量し、年間窒素成分量を38kg/10aとした。
- 施肥前に除草し、降雨前に施用した。



### 2 スチロール容器を用いた貯蔵技術の検討

- 収穫40～55日前に硝酸カルシウムを施用した。
- 1℃設定のスチロール容器内の温度は緩やかに下がり、湿度は高く推移した。(表1)
- 1℃設定のスチロール容器内の温度は緩やかに下がり、湿度は高く推移した。(表1)
- エチレン吸着剤(CSパック)を入れて貯蔵することで、緑色効果が高くなったが、2ヶ月後には貯蔵ヤケが発生した。(写真1)

パンフレットを作成



1℃で設定した冷蔵庫の中のスチロールの温度と湿度の推移(表1)



新スチロール CSパックなし CSパックあり

(写真1) 貯蔵2ヶ月後の調査

### 3 晩生すだち「勝浦1号」を産地導入支援

- 7月に品種登録出願した晩生すだち「勝浦1号」が11月に出版公表された。そこで、主要JAに産地導入推進方針を説明した。
- 今後、JA全農とくしまに利用権の許諾が行われる予定である。



検討会



着果状況を見学

## 今後の発展方向

スチロール容器を用いた貯蔵技術は、さらに検証を行い、技術マニュアル策定を行います。晩生すだち「勝浦1号」は、基本方針に基づき産地への導入を支援します。

## 関係者からの声

- 硝酸カルシウムを施用によることで、「緑色保持効果が見られる」との声が聞かれた。(生産者)
- 貯蔵技術の検討会では、「次年度は、他の生産者にも呼びかけ在庫量を増やして取り組みたい。」との意見があった。(生産者)
- 晩生すだち「勝浦1号」の品種特性や産地導入推進方針について理解できた。(担当者)

## 高度技術支援課

徳島県名西郡石井町石井字石井1660

tel: 088-674-1922